

平成29年度第1回学校関係者評価委員会の報告

日時 平成29年6月21日 10:30~12:00

場所 加世田高等学校 応接室

出席者 委員 加世田高校PTA会長，加世田中学校長，万世中学校長，大笠中学校長  
金峰中学校長，万世中PTA副会長

学校 校長，教頭，事務長，教務主任，生徒指導主任，進路指導主任，保健主任

質疑応答及び感想・提言（教育活動全般）

- 加世田高校の1年生の入部立が90%超ということで，中学時代に部活動に入っていなかった生徒もなんらかの部活動に入部する生徒が増えているようでよいことだと思う。
- H29卒の「その他（含予備校）」の人数が，例年に比べてかなり少ないが，そのことについてどう考えているか？
  - （進路）卒業生が少なく，予備校に行った生徒自体が例年と比べて少なかったことで相対的に少ない数字になっている。予備校に行っても，加世田高校の生徒として，学校と予備校が連携をとって，生徒の進路実現のために尽力している。
- 生徒募集について，通学手段がネックになっている。高校説明会等の際に，通学手段についての丁寧な説明が必要と思われる。
  - バス会社への要請により路線バスが学校近くまで来るようになったのは一つの成果である。帰りのバスについても，時間などがどうにかならないか検討中。また，コミュニティバスの活用についても，引き続き市に要請をしていきたい。
- 学習環境も含めて，学校全体の環境がすばらしい。建物外の自然環境もきちんと整備されている。この点も学校のPRに生かせるとよい。
- 職員アンケートでアクティブラーニングに関するプラス評価が低い，小中学校におけるアクティブラーニングもまだまだ工夫が必要。高校でも一生懸命取り組んでいると思うが，何でもかんでもアクティブラーニングというのではなく，従来の授業形態とアクティブラーニングとのメリハリが大切。
- 生徒アンケートで「主体的に学ぶ喜びを感じている」のプラス評価が低いのは，中学校で行ってきた授業の関わりと，高校での授業のあり方のギャップを感じている生徒が多いと思われる（特に1年生）。今後，中学校と高校の学習の仕方の接続が大切。
- アンケート項目が多岐に渡り，内容がかぶる項目もあって分析がしにくいのでは。質問項目を絞るなどして，もっと現状に合った，より今後につながる分析ができるような質問の工夫をしてみてもよいのでは。
- 卒業生でもある高橋聡美さんに講演をしてもらい，非常によかった。こういった，第一線で活躍している卒業生をもっと活用して欲しい。
- 本日，学校の施設や授業の様子などを見学して，整った環境や，生徒が落ち着いて一生懸命に学業に取り組んでいる姿が非常によかった。自分の子供も加世田高校に行つて欲しいと思った。
- 生徒募集の努力を今後も工夫して継続的にやって欲しい。中学生に，加世田高校の良さをいかに訴えるかが大切。各中学校の卒業生に，加世田高校の様子を記事にした新聞を作成してもらい，中学校に掲示するなどの取組もよいのではないか。
- 中学校へ卒業生がたびたび顔を出してくれてとてもありがたいと感じている。今後，生徒数が減少していく中で，ただ入学する生徒数を増やすためのPRに終わらず，将来の南さつま市や南薩地区を担う人材を育成していく上で，高校がどのように関わっていくかという視点が必要。その辺りを含めた加世田高校の意義というものを考えていくべきではないか。